

# 現代仏具のデザインに関する座談会

—高岡仏具卸業協同組合員と高岡短期大学生の意見交換—

Discussion on new designs for Buddhist altar fittings

- 高岡仏具卸業協同組合、富山大学高岡短期大学部
- Key Words: Altar fittings, Population decrease, Aging society, New design

## 概要

高岡仏具卸業協同組合と高岡短期大学が連携して「総合工芸演習」（専攻科産業造形専攻1年生対象）の授業を行った。グループと個人で取り組む2つの課題があり、それぞれで三具足の機能を有した現代仏具と、機能を有しない偲ぶ空間の調度品をデザインするという授業であった。これらの学生デザイン画へ組合員がコメントを記入し、そのコメントを学生が読んで座談会を開催した。

座談会の最初に、国立人口問題研究所が発表している日本の人口減少、少子高齢化に関する人口推移予想の資料や、山崎正和氏の少子高齢化社会に関する新聞記事などを紹介し、日本社会の変化、生活スタイルの変化を認識した上で意見を交換した。この連携授業によって、学生は21世紀社会でのものづくりやデザインを、組合員は社会状況や生活スタイルの変化に合わせた商品開発を、それぞれが学習・研究することを目的としていた。

以下は、平成17年2月に高岡短期大学でおこなった座談会の記録である。なお、発言者は組合員と学生を数字とアルファベットで表し、大学関係者は苗字で示した。人口問題関係資料の説明部分は省略した。

**三船** 山崎正和さんが、「日本では20世紀につくり上げてきた大量生産、大量消費社会の終わりが見え始め、これまでのモノ消費より充実した時間の消費へ向かうだろう。大量規格生産の資本主義が合わなくなり、モノからサービスへの転換がカギになる。一人ひとりが自分に合ったサービスを受けたいという需要は渦巻いている」ということを新聞（朝日新聞朝刊 平成14年12月30日）に書いています。

高岡仏具は銅器で作ったモノの消費です。2006年から日本の人口が減るわけですが、組合の方は商売で全国を回っていて、本当に時間消費社会になると実感されますか。

**組合1** 少子化の問題で言うと、今、シックスポケットという言葉がベビー用品メーカーの言葉となっています。子供のために両親とその親たちの6つの財布からモノを買い与える。これはそれだけ子供が少ないことだと思います。

**組合2** モノを売る側の立場から言わせていただきます。少子高齢化という問題がこれから益々進みますけれども、少子化の問題よりもどれだけの人が亡くなるかという問題の方が最近では深刻ですね。仏具は亡くなった人を弔うための道具という意味合いがありますが、これから20年30年先になると必ず今よりも、亡くなる方が増えていくわけです。しかし、それを弔う側の人間というのは減っていくわけです。本家を継ぐとか、分家するだとかっていろいろ問題がありますが、分家していく人が増えない分には仏壇が増えないんですね。私たちが問題だと思っているのは、亡くなる人は増えるんだけど、亡くなった人を弔う側の人に仏壇や仏具をどれだけ購入してもらえるかという、問題はそこですね。

**組合3** これまでの日本は右肩上がりに経済が成長し、山崎さんの新聞に書いてあるように、大量生産・大量消費という、モノを作れば売れた時代だったんですね。私はいま29歳ですが、学生の時にはバブルは終わってしまいましたが、華やかな時代で、ちょうど就職したくらいに世の中がちょっとおかしくなりはじめた、日本の経済がたつき始めた時

代だったんです。いろんな商売をされている方でも、本当は何を売ってあげればいいのか。どうしたら生き残れるのか。じゃあ最後に生き残っていくのは大企業だけなのか。しかし、小さな企業には小さな企業の必要性がある。

そんな中で、これから日本ではおそらくお金を持つ人と持たない人の差が激しくなる。その消費のニーズをどこに置いていくのかによって、モノを作っていくところの観点が変わっていくと思うんです。ある程度お金を持っているんだけど、普通の商品では飽き足りない人にターゲットを絞って、付加価値、今で言うデザイン性であったりとか、用途であったりとか、そういうようなものを付け加えて売っていくような形にしていけないと、非常に難しい時代になってきたと思います。

**組合4** どうしたらいいんですかね。2025年には私は65歳になっているので、その頃はもう収入もないのかと思うと。年金問題が今問題になっていますが、まずそのお金があるかどうかは今心配ですよ。子供に頼るしかないのかな。

**組合2** 現在、私は伊豆とか長野とか、俗に言う避暑地といわれる所に出張に行っています。日曜日の夕方、3時4時過ぎになりますと、熱海湯河原から延長10数キロの大渋滞ができるわけですよ。中央道にしても、山梨でぶどう狩りをして、あるいは長野の温泉に行って、帰りは八王子インターチェンジを先頭に、やっぱり10数キロの渋滞ができるわけですよ。そういったことがおそらくこの山崎さんの言われる時間の消費で、現地で3時間、車の中6時間というようなことが、充実した生活であるのかどうか私には疑問ですけれども、都会の方に

とってはその渋滞も楽しみなんだと。もう始めから承知して行っている。

**三船** 今のお話はよくわかりました。充実した時間を過ごすことにお金を使っているということが顕著にあらわれているということですね。それがまとまって行動するものだから渋滞が・・・。

**組合2** 日本人の特性だと思うんです。例えば、今プラズマテレビが売れている。どこのチャンネルにしてもプラズマテレビの宣伝をしている。やっぱり日本人というのは変なもので、一挙にそっちの方に向かうので在庫が空になる。山崎さんは時間の消費ということを言っておられますけども、日本人というのはその一方で、やっぱりステータスとしてクラウンに乗りたい。ワイドのプラズマテレビも持っていたいというのが日本人の特性なんです。

**三船** 学生に同じような質問です。日本は山崎さんのような変化を遂げていくと思いますか。

**学生A** 何をするにも少子高齢化問題は必ずついてまわる問題だと思います。でも僕の実家は都会から少し離れた住宅地で、まだ少子高齢化問題は身近に感じないです。

**学生B** 老人ばかり残っていくような世の中だと、活気が無くなっていくのかなと思います。そういうふうになると、大量消費というのも当然無くなっていく世の中だと思います。

**学生C** なんだかんだ言って、人はモノを使う、使わなければ生きられない。モノっていうのは人が作っているもの。人は向上心がある生き物だから、どんどん次を目指していこうとする。だからモノをどんどん使っていく、モノを消費していくっていう社会は無くならないと思うんです。人がモノを多く持ちたいというのは、先天的なものなんだっていう感じがあって。だから、どんなに人が少なくなったとしても、その少なくなった人の分だけ今まで以上に、より多くのものを持ちたいし、より良いものを持ちたい。

**組合5** 先日高岡短期大学で、皆さん学生さんの仏具デザイン展をしましたが、そこに、組合から昔の江戸、明治期の仏具と現代の仏具を展示しました。見られましたか。

**学生C** はい見ました。昔のものはやはり着色も一点一点人がやっているように感じられて、深みがある感じがしました。新しい現代仏具は機械の加工が入っているのかな、という感じが結構伝わってきてしまう。だけど、江戸時代の仏具は、全て手彫り、手で着色をしているような。もし江戸時代の仏具がもらえるんだったら、仏教の世界に入ってしまうのかな、みたいな良さは感じます。

**三船** 今度は女子学生に。少子高齢化社会になってきた時に、人々の生活はどう変わるのでしょうか。

**学生D** 少子高齢化と直接関係があるかはわかりませんが、一昔前は、大量生産・大量消費の時代で、モノが溢れていると言われていました。これからも違う意味でモノが溢れると思います。それは、人の好みの幅が広がっていると思うので、種類が増えて溢れると思います。本当に昔から続いているような、格式の高いものを好む人もいれば、そんなにコストのかからない、デザインもそんなに凝っていないものだけど、価格的に手が届く、自分の生活スタイルに合っているから使いたいと考える人が増えてくると思います。今もそういう考えが出てきていると思います。

**学生E** 充実した時間の消費ということで、充実した時間をどこにおくのかというところでモノへの好みの幅が広がる方向に向かっていくのだろうかということは感じています。

**三船** これまでの生産・消費スタイルではないのだと。

**学生F** 最初に思ったのが、高齢化社会になって、歳を重ねた方が多くなることの何が悪いのだろうかと思いました。自分が生きてきた中で経験が活かせるのは30歳ぐらいからだろうと思っていて、いろんな考えの幅を持てるのが40歳と

か50歳ぐらいから、というのが自分の中であるので、若者の力を過大に信じてないし、むしろ歳を重ねた方が多くなった方がおもしろいのではないかなと思っています。消費に関しては、百貨店のものでも、格式のあるものでも、良いものは良いし、悪いものは駄目だと思っていたので、きっとこれからもそうだと思う。それも、何に問題があるのだろうと疑問を感じます。

**組合5** 仏壇の消費というのは、何がいくら売れたかという調査はできているんだろうけれども、何歳の方が何を買っていったかというのはおそらくつかめないと思うんです。おそらく仏壇なんていうものは、20代、30代の方よりも、やっぱり40代、50代の方の購入が多いと思う。父親や母親を送った時に、買い求めるのは私らの年齢なんです。その時に何を求めるかということを考えると、やっぱり今の方が言われた意見が、一番近いかなと思います。

**学生G** 私も、高齢化になること、高齢者が増えることは悪いとは思わないし、人の好みも様々で、それにあわせてモノの幅も広がっていくと思います。

**学生H** 同じように幅が広がっていくのではないかと思います。どういう人に向けてこの商品を売りたいかということを含めて以上具体的に絞って、どういう場面でこの商品を使ってもらいたいのかということをも具体的に提案していく時代ではないかと思います。

**三船** 女子学生に聞くと多くが、好みの幅が広がる。一品種大量生産されたものではなく、多品種少量生産のモノを幅広い層で求めてくるのであろうと、かなりの数の学生がうなずいています。

**学生A** 人口推移の資料を見て思ったんですけど、これだけ小さな国で、これだけたくさん県の県があって、その県独特の風習とか、個性をもった地域が固まった日本のような国ってそうそうないと思う。今も地域ごとに、まちおこし政策とか、大きくなってきているので、少子化になることを逆にとらえて、じゃあ少なくなった地域の人には、こういうもの

を提供していくとか。その地域性を逆手にとらえて、多様化に合わせていけば、これだけの県があるので、いろんなものが出てくると思います。都心は何がそんなに魅力的なのかもわからない。地域で町おこしの動きが盛んになってきているので、それがもっと広がれば、少子高齢化という問題も怖くないのかなと。

**学生I** あ、20代の前半とか、10代の後半とかは、都会に行きたいというのはあるんですけど、落ち着いてくると、戻ってきたい。

**三船** なるほど。じゃあ、一度は都心で暮らしたいという人、いますか？

**学生A** 都心というより活気がある街ですね。

**三船** 活気がある街。高岡市は20年前からすでに人口が減っています。ところで70歳ぐらいのかたが発言された内容ですが、「私はこの歳になってきたら、死んだ父親の好みと同じになってきた」って言われました。人間というのは歳をとると、好みがいわゆる老人化してくるのだ、というようなことをおっしゃったんですね。学生に聞きますが、自分たちが65歳になった時に、今の65歳の人の好みと同じになっていくのか、違うのか。65歳、想像できますか？

**学生J** 多少は、似ていくと思うけど、育った時代とか、環境も違うので、好みは少し違うと思います。

**学生K** おばあちゃんが好きな音楽と、自分が好きな音楽は違うし、見てきた映画も違うし戦争も経験していないし、もう考え方が違う。若いときの生活は、おばあちゃんとは違うけど、でも老人ならゆったりした感じが一緒かな。根本的なところは、「ゆったり」みたいな。そういうのは一緒だけど、でも違うと思います。

**三船** 例えば、ダンスとか、テーブルとか、自分が65歳で使うものを想像した時に、今のおばあちゃんが好んで使っているものになっていくんですか？

**学生S** いや、そうはならないように思います。実際自分のおばあちゃんは80歳過ぎて、いろいろ会話しているので分かるんですけど、ものに対する価値観が全く違うんで、自分が年をとった時に、急にそんなに変わるとは思えない。

**三船** では65歳になって仏壇を置くんですか？ そういう時に、今、おじいちゃんおばあちゃんが使っているような、あぁいう仏壇を使う感覚は出てくるのでしょうか？

**学生L** どうですかね。私は長女ではないんですけど、もしも私が長男で、父も長男で受け継がれてきたものであるならば、使うと思います。

**学生M** 仏壇は、おばあちゃんの家にはあったんですけど、自分の家にはなかったし。仏壇を全く使っていなかった人が、おばあちゃんになってから、すぐ使いたせるかっていうと、それは、すぐには使いたせないような気がします。

**三船** 今の20代の人歳をとったからといって、今65歳以上の人使っているような仏具をそのまま使うかどうかは疑問だと。

**学生M** それについて知っている時間、使った時間が短い場合は違うと思います。

**学生N** うちの仏教徒ではないので、そういうものに馴染みがありません。おばあちゃんの家にはあるんですけど。うちは転勤であっちこっち移動して、そういうものを持つという概念すらなかったので、多分いくら歳をとってもそういうカッコリしたものを置くとは思えません。

**学生O** 今のものが使われるか、という事ですよ。65歳っていうことは、40年後っていうことになるから。仏壇でいうと、今でも昔の仏壇と違う現代仏壇というのが出てきているので、40年経つと、また新しい仏壇が出てきていると思うんです。自分が歳をとっていく過程でそういうのが出てきているわけだから、そういうのを使うと思います。

**三船** あなたもやはり、65歳になると、今の65歳の人好んで着るような洋服とか、家に住むんでしょうか？

**学生O** そうなると思います。住むと思います。今の20代の人着ているような服を歳をとって着たりするということはないと思うから、やっぱり、その年に合った人の服装とかものとかを、欲しいと、僕は思います。

**三船** 今の時代に育った若者が、65歳になったとき、今の65歳の人とは全然違う感覚で生きていくのか、やっぱり65歳になったら、いつの時代も65歳の感覚になるのかっていうことを知りたいんですが、どう思われますか？

**学生P** 僕は違うと思いますね、やっぱり。絶対違うと思います。科学技術や経済状態とか、そういう若い時の生活環境が違うんで、それが身に染み付いてしまっただけで歳をとっても変わらないと思います。携帯電話もあるし・・・。

**学生I** うちの、おばあちゃんなんですけど、感覚が若くなってきている気がします。例えばスーツを買うとき、そのスーツに合うネクタイを選んで買ってあげるからってということで一緒に買い物に行くと、選んでいるときに、僕が選んだのにダメ出しをされる。そんな色の組み合わせとかは定番過ぎて良くないとか。それで、おばあちゃんが選んできてくれたものの方が、いいじゃない、みたいな話になったりとかするんで。

**組合2** あ、おばあさんはユニクロへ行かれます？

**学生I** はい、行きます。

**組合2** 皆さんそういう時代なんですよ。全部ユニクロですよ。結局、60歳のおばあさんが着ても、私ら52歳が着たって、20代の人だって、それで通るんですよ。

**三船** お年寄りが無理しているんですか？

**組合2** いや、無理じゃないですよ。



**学生I** そういふふうには、傍から見たら見えるかもしれないですけど、本人は楽しんでると思うんですよ。うちのおばあちゃんの例からすると。だから、うまく具合に中和していく感じで。

**組合2** それはいつの時代もそうなんじゃないんですか？30年前の65歳のおばあさんと、今65歳のおばあさんは違いますよ。私らの時はすごい年寄りでしたよね。昔の65歳。

**学生Q** 今のこの自分の持っている感覚と、何十年か経ってからの感覚っていうのは絶対違うと思います。40年後になると、結婚して子供もいると思うんですが……。もし旦那さんが亡くなったら、その偲ぶ気持ちとかは出てくるので、大きな仏壇は使わないかもしれないんですが、やはり仏壇みたいな形式、というかスペースは確保して、毎日手を合わせると思います。やはり、今のこの感覚のままずっといくとは思わない。

**三船** 先日、組合の案内で高岡の仏壇、仏具を見学しましたが、なかに現代仏壇、現代仏具がありました。それを見て学生が「これはちょっとね」って感想を漏らしていました。あれはどうしてそういう言葉が出たのかな？

**学生A** インターネットで、僕がかっこいいと思うものを他に見ていたから、そういうような意見を。まだ古い仏具のイメージから抜けきれていない。

**学生P** デザイン考えるんだったら、あそこまでシンプルにするんだったら、もっとシンプルにしてしまってもいいのではないかなと思いました。

**三船** それは仏具？

**学生P** 仏具、仏壇の両方。私は家にやはり仏壇が無くて、祖母ともあまり会う機会がなかったので、仏壇に手を合わせるにも仏壇とかも無くて、この歳になって初めて手を合わせたんですけれど。普段からそういうのを見て育った人と、私みたいな何も見ないで育った人っていうのは、それに対する気持ちっていうのが全然違う。

**組合5** もう既に6年前にそういうものが出ていますよ。唐木現代小型仏壇で、その中に入っている仏具が、イタリアのベネチアガラスであったり、ワイングラスのようなものであったりっていうのが、もう出ています。

**三船** 組合の方々が書いた、学生の仏具デザイン画へのコメントを学生は今日、読みました。コメントを見て、学生は直接組合の方に質問してもいいです。組合の方にもいろんなことを言っていた方がいい。良い商品を今ここで開発しようという場ではありません。大きな人口変化がある今後の社会で、どういったものを作っていかなければいけないか、直ぐには答えの出ない場にいるわけです。そういった問題をお互いが探っていかなければならない。組合の人は仏具で、学生はそれぞれの就職先で探っていかなければという状況ですので、遠慮してもしようがない。それぞれが持っている常識、古い価値観、狭い縛られた考えとか、そういったものを自分自身に問いかけて、明日からのそれぞれの活動に活かしていただきたいと思っていますので、自由に発言ください。今回の現代仏具をデザインするという課題を通してどんなことがわかりましたか？

**学生I** 仏具は生まれた時からあったものなので、存在している意味を深く考えたことがなかったが、考えていくうちに面白い発見があり、だんだん仏具のデザインや模型を作ることに夢中になり面白かった。

**組合7** 学生の方に質問なんですけど、自分が家を建てた時に、仏壇を置こうと思いますか？もしくは仏壇を置くスペースを作ろうと思うか、ちょっと手を挙げて頂きたいんですけど。

**三船** 11人。半分くらいいますね。

**組合7** 学生の皆さんに、宗教観ってありますか？宗派が、分かっておられますか？半分の方は分かっておられますね。自分の宗派を知っているという方が、それをまた更に受け継いでいこうという気はあるか。自分がそういった親の世代になって、自分が独立した時に、自分は全

く無宗教でいくんだとか。無宗教でいきたいな、という人は手を挙げてみて下さい。

**三船** 半分近くいますね。学生から意見は。

**学生A** 今、それを質問しようとしていたところで。僕も宗教観っていうのはちょっと疑問に思っているんですけど。三具足のデザインのコメントのところ、インテリアに似ているっていうコメントをいただいたので伺いたいんですが。これまでは宗教っていうものは絶対的なもので、やらなければならない、置かなければならないという行事みたいなところがあつたと思うんです。僕が今回、三具足を作る上でコンセプトに挙げたのが、本当に人が亡くなった時に大事なことは、故人を偲ぶこと。それができるものであれば、仏具っていう、宗教概念にガチガチに固められたものを、わざわざ置く必要はないのではないかなと思います。

**三船** 仏具組合の人と話をすると、やはり、当然のことなんですけれども、決まりの中で発言されることが多かった。コメントを書いている時も、従来の何々宗の仏具から外れているっていうご意見を聞きました。ところが学生からは、これからはそういったものは関係ないんだと。親しい故人を偲ぶためのインテリアでいいんだという考えなんです。これはずっと、両者から聞こえてきた言葉です。どうですか？

**組合8** 仏壇を置こうと思っている方という質問に対して、11人の方が手を挙げられましたけども、学生のデザインを見ると仏壇の中に置こうという道具の感覚ではもちろんないですよ。インテリアの一環として。あるいは、自分が想いをささげた人を偲ぶための道具という。それはそれでいいと思うんですよ。以前、大手家電メーカーの、デザインを専門に考えていらっしゃる人たちとディスカッションをしたことがあるんです。都会生活には、仏壇というのは間違いなく合わないし、もちろん仏具も今のマンションでのライフスタイルには全然合わない。色から形から。これは10年

くらい前の話ですけど。先ほど11人の方、仏壇を置こうと思っているというのは、おばあちゃんの家に行って、そういうものがあつたから、自分がそういう年になったら置くだらうという感覚なのか。本当に故人を、あるいは愛する人を偲ぶために、自分が必要だと思って手を挙げられたのか、その辺がちょっとわからないんですけども。仏壇に入れる道具っていう感じではないんでしょうね。皆さんがデザインした三具足は。

**学生A** 直接関係あるかはわからないですけど。僕が65歳になったら今の65歳の人のように、感覚が老人化するのかと言われた時に、僕は違うと思うんですよ。僕たちの場合は、選ぶ自由がある、選ぶ好奇心。だから65歳になった時にその感覚は、今の65歳の人とは違うと思います。

**三船** 質問されたのは、若い学生が仏壇を持つと言ったのはなぜですかという質問ですね。

**組合8** そうですね。どのような捉え方なのかなど。

**学生A** 僕が手を挙げたのは、インテリアとしての仏壇という意味で手を挙げました。仏壇というジャンルではなくて、もうインテリアとして。

**学生Q** 父が長男ではないので、昔風に仏壇はないんですけど。今の現代仏壇のような形のもが我が家には置いてあるんです。昔からの風習というか、そういう慣れみたいなのがあると思います。きらびやかな形をしているものは多分選ばないと思いますが、そのスペースを設けるという意味で、小さいなりに仏壇があつたらいいのではないかなと思っています。

**組合5** インテリアの仏具という話をされました。例えばリビングルームに空間があれば火立・花立・香炉を置いてですね、そして写真を置いて、食事をする時に合掌するっていう風な、そんな時代になってくるのではないですかね。私は61歳なんですけど、お寺さん関係の幼稚園だったので、食事をする時に手を合わ

せたものですよ。そういうような事を考えますと、リビングルームのある空間のところに三具足を置いて、合掌をする。そこで食事をする。そういう風な習慣づけを、敢えてこちらからしなくてはいけないと思います。

**三船** 学生は、自分たちの仏具デザインにどなたがどういうコメントを書いたかっていうのは分かると思います。その人たちに質問したいことがあれば、まず聞いてみましょう。パソコンの中で死んだ人が生き続けるというあなたのデザイン、提案にはどういう感想が書かれていましたか。

**学生O** 賛否両論でした。21世紀の社会では、こういうコンセプトはおもしろいかも。やっぱりパソコンを利用する点というのが評価されています。それと逆に、問題となる点で言われているのが、やっぱり、モラル的にどうなのかと。

**三船** そうですか。では、Aグループの人たち、デザインに対するコメントを読んでどうですか？

**学生I** 設定金額が高いと書かれています。もともと、仏具の値段の感覚が最初から無かったので、安すぎても有り難味がないだろうと。逆にもっと高い方が良かったかなと思ったぐらいだったんですけど、高いという評価が多かったので、そういう感じなんだと分かりました。

**学生A** あ、お聞きしたいんですけど。日本人は高いものが良いという概念は、それは日本人特有のものなんですか？高くないとご利益がないというふうな考え方は。

**組合2** それはもうないでしょ。

**野瀬** ちょっとお聞きしたいのは、高いうっておっしゃるのは、仏壇の中に納めるパーツとしての値段をおっしゃっているのでしょうか。

**組合2** そうです。

**野瀬** そうですよ。だから、仏壇の中

に納めるパーツとして捉えるから高いのであって。私はね、学生たちの作品を見まして、三具足自体が仏壇だというような捉え方をしているんだと思うんですが。それに後ろに写真さえあれば、それがもう1セットなんです。そういう見方をすれば安すぎるくらいです。ちゃんとした仏壇があつてそこに納めるものとして見れば高いということですね。

**組合5** そうです。高いです。

**野瀬** それはわかります。だからその見方を変えないといけないんじゃないかなと思うんですが。

**組合5** いや、さっき言ったようにインテリアならインテリアで、あれが三具足の最終形という時には逆に安すぎる。

**組合6** 現実にねえ、仏具が全国発信されているのは、高岡で作って、仏壇屋さんへ納めて、それで末端のお客さんに行くわけです。そうすると、私らはどうしても、仏壇から離れられないんです。私らはこの中で一番年長ですから、なおさら駄目なんですけど。発言する資格はないんですが、どうしても仏壇とセットで考えてしまう。だから仏壇とセットで考えると、末端の仏壇屋さんの考え方が価格に反映されて、価格の限界が決まります。だから、こういう連携授業をやつたのは、流れが変わってきているのだから、今までの考え方と違った道に行けば、これはこれでその道があるんですよ。だけど今までの私らの辿って来た道すじから言うと、やっぱり原価を考えないと駄目なんです。

**三船** わかりました。今のことよくわかりましたね。ではBグループの人たち、どういう感想が書いてありましたか。

**学生R** デザイン的にシンプル過ぎるという意見がありました。

**三船** 単に四角い箱だけじゃないかと。そういうコメントがあつたと。砂時計のデザインはどうですか。

**学生S** インテリアとしては良いけども、神聖な気持ちになれないと。

**組合1** 何のために、砂時計を置いたんですか？感覚的に。僕は誤解して書いているかもしれませんが、砂時計をなぜ写真の横に置いたかということ。これもあくまでも1つのインテリアなのか。その、砂時計の意味なんです。

**学生K** 最初は、時間にこだわって。例えば、死んだ時刻を刻んで、そういう発想で。あと、時計の時を刻むというのが、神聖な気持ちになれるのではないか、という発想と共に、その砂の代わりに遺灰にするとか。そういうことから砂時計に。

**組合1** 亡くなられた方の人骨を刻んで、分骨というのはあるんですね。本当にお骨を、実際にお仏壇の中に入れたり、あるんです。だから、砂時計は、お骨を偲んで、それを入れたのかなと僕は思っていたんです。

**三船** 中間発表では、骨だったんです。それが他の学生から不評だったんですが。

**組合1** ということは人骨だから、それはダメということですか？

**三船** サラサラ落ちない。

**組合1** いや、それは落ちるようにする方法はいくらでもありますよ。自分の家の仏壇の下にお骨を置いておく、というのがあるんです。今言われた、砂時計の代わりにお骨を、すりこんでやるというのは、良い考えです。

**三船** それではグループCの人はどうですか。コメントに対しての感想。

**学生F** 結構いろんな、良い評価を下さっていました。

**学生M** やっぱりインテリアとして良いという。仏具という役割ではなくて、側に置いて、そういう時間を過ごすためのひとつの道具としては良いのではないかという意見がありました。

**三船** ではグループDにいてみましょうか。組合の方の感想はどうですか？

**学生B** おっしゃる通りだと。それを、収納する意味があるのかというところで。収納してしまったら、次に出してわざわざというのが手間になるとか、あとは灰の処理をどうするのかとか。

**三船** じゃあですね、この「水紋」のデザインには何て書いてありますか？

**学生O** 水滴が落ちる仕組みはおもしろいというようなことが書いてあります。

**三船** では個人課題への感想に対する質問をしたいという学生はありますか？

**学生Q** 自分のデザインについてではないんですが。両方の課題に、色とか柄の面でもう少し工夫をしてみても、というのが書いてあったんですが、私の作った作品はCグループのもので、結構白色が多かったり、ガラスを使っていたりします。やっぱり色は濃いほうがというか、白色ではあまり良くないのかなという印象を受けたのですが、どうなのでしょうか。

**組合6** 白は見ませんね。今までは。悪いとは思わないけど。白というのは、神道が多い。

**三船** その辺を学生に聞いてみましょうか。例えば偲ぶ調度品で、白の陶器をAグループが出していましたね。白だったら使わないのではないかと、売れないのではないかと、という意見ですけど、自分だったら白を関係なく使うという人いませんか？手を挙げてみて下さい。多いですね。学生はほとんど関係ない。

**組合2** ギャップがあって良いじゃないですか。

**三船** ギャップがありますね。あなたのデザインはどうですか？生きているうちに自分の仏具を自分で削って磨くというものですが。

**学生R** 自分自身のオリジナルができるというのは興味深いという感想もありましたし、問題点としては、形がどうか、素人の人はできるのかとか。

**三船** どうですか、あなたの考えでは、これは素人の人にできますか？

**学生R** できると思います。

**三船** これからは時間消費社会の時代になっていく。だから、死ぬ10年くらい前から半製品を買って、削って自分の仏具を作れと。

**学生R** 実際に、仏具ではないんですけど、最近自分で作るキットが発売されていますので。

**三船** 先ほどの山崎さんの時間消費の時代と、非常に合うわけですね。モノを買うのではなくて、時間を消費するのにお金を払うという考えですね。

**学生A** 1つだけ気になることがあるんですけど。今回、三具足の火立・花立・香立を作ったんですけど。多分僕の場合でいくと、もし課題として、火立・花立・香立の条件を付けなくていいというのだったら、多分つけなかったと思うんですよ。課題で三具足を作りなさい、と言われたから作ったところがあって。もしそれが無いもの、仏具になるかはちょっとわからないんですけど。そういうものが売れるのかっていう。今、商品になるのかという、質問なんですけど。

**三船** 他の学生はどうでした？今回の課題の1つには、三具足という条件がついていますね。もうそんなのはこれから関係なくなるんですか？自分の使いたい組合せで使うと思う学生は、手を挙げてみて下さい。ほとんどですね。もう三具足なんて関係ないんだということですが・・・。

**水島** その関係でちょっと、いいですか？私、55歳なんですけども、父親が亡くなって、それで仏壇を入れたんです。それまでは父親が転勤族でしたので、家に仏壇というものがなく、したがっておまいりするということもなかった。父の一周忌を行うことになって、家具調の仏壇を買いました。なぜ家具調にしたかと言うと、ものが入る。それから普段の時には閉めておける。あとで使ってみたら閉めておく時などは結局なかつ



たのですが。それからその三具足なんです。私は仏壇だけ買って、あと、花は花瓶がある。それから線香はやっぱり香炉が必要だろう。蠟燭も灯すようなので2本必要なのかと思って仏具屋に行ったら1本でいいですよと、言われたので1本買って。なんなら2本買おうかとも思った。というふうに、三具足のことは全然頭に無かったんです。仏具屋さんでも、詳しく教えてくれない。だから、さっき仏具の価格の話がありましたけれども、仏壇自体が15万か20万くらいのものだとしたら、三具足で1万円以上を出すなんてことは夢にも思わなかったし、それがセットになっているということも考えなかった。香炉はちょっと青磁っぽいものもいいなと思って買ったし、花瓶はそれらしいものを買ったけれど、後で花を生けているとすぐに水が蒸発して不便だということで、もっと大きいものに買い直した。そういうような事なので…。はじめて関東から富山へ来て、三具足にはそういう約束があったのか、というふうに思った。ですから、そういう約束を知らない人というのはたくさんいると思いますよ。で、それが必要なかどうか。それは、みんなに考えていただきたいと思うんですが。

**三船** 一消費者としてのご意見を水島副学長からお伺いしました。ありがとうございました。では学生からないでしょうか？

**学生F** 私は、さっきからのAくんの意見とは全く逆で、仏壇はインテリアではないと思っているし、現代仏壇だと脚がついて立ったまま拝めるものがあるんですけど、そんなのは有り得ないと自分の中で思う。ちゃんと火はつけて、正座をして拝むものだし、シンプルがそんなに良いのかという疑問もあります。むしろ今のままとするか、江戸時代のもののようにたくさん加飾がしてあるものの方が魅力を感じました。だから、ガラスとか磁器の素材の魅力もあるけど、何でもそぎ落としてしまうのはどうかと思っています。

**三船** やはり、全部がシンプルな方向にいくわけではない。多元化していくというか、幅が広がる。従来の需要もあるわ

けですね。若い組合員の方に聞いてみましょう。

**組合3** 自分が死んだ後、例えば自分の子供に拝んでほしいと思う人って、手を挙げてもらえますか？7～8割の人が多分そういう気持ちがあるようですけど。どちらかと言えば私も学生の立場に近い世代なので、この業界に入るまでは、自分の家には仏壇はあったんですけどあまり拝むこともなかったです。やはり今までの若い人たちの考え方というのは、自分がどう使おうか。自分はこのものは使いたくない、こういうデザインは嫌だなど。家の単位で考えてきたものがすごく個人の単位に変わってきている。いわゆる核家族化という時代の中で、自分が使うものの道具としては嫌だなど。これがもう個人的な趣味・趣向の形になってきているんですね。やっぱり誰しもが自分が亡くなって、遺骨でも何でもぱーっと撒いて、忘れてしまってくれてもいいやという人は結構少数派で、やっぱり自分がこの世に生きてきた証として、何らかしら残しておきたい。故人が何らかしらこの忙しい生活の中で忘れられないようにするためにある一つの空間が仏壇という空間なのではないかな。それは時代が変わってもあまり変わらない、変化しない部分があるのだと思います。私もすごく、この場に来て勉強させていただきまし、皆さんも多分、この場でいろいろ学ばれたと思いますのでこの会はよかったのではないかと個人的には思いました。

**組合8** 私は実は去年の5月からこの業界に入って、限りなくこっちに座っているのではなくて学生の感覚に近い。亡くなった方と向き合うというような、根本的というか、そういうものというのはこれからも永遠とあるものだと思う。そういう死者と向き合うための装置としての、仏壇を含めた仏具ですよね。我々が相手をしているのは直接のあなたたち消費者ではなくて、その間にはさまっている仏壇・仏具の業界というのがあるわけですね。その人たちが、そういう仏具ではないものでいいじゃないとか、ガラスでもいいじゃないとかを許してくれないわけです。我々はその人たちに買ってもらうしないと生活として成り立たないも

ので、その人たちがいいなと思うものを一生懸命作るというような状態です。だから、なんとなくズレが生じているというか。やはり実際に面と向かって言わなくてはいけないことを、その向こうにいるあなたたちとの間に、まだ壁があって。お財布を開く人たちに沿うように、仏壇・仏具業界というのも今後、変わっていくと思います。僕も30歳代なんですけど、将来市場がそうやって変わっていけば、販路も変わっていくし、当然それに基づいて我々も変わっていかなくてはならない。高岡は非常に金属加工という事においては、他に例を見ないノウハウとか、横のつながりが地域でありまして。宗教用具は金属でなければいけないと販路の人たちが思っていてくれたおかげで、最大限のノウハウを使っていくことができたんですけども、今後はガラスでも何でも良いということになると、なかなかそのノウハウが生きてこない。頑張らなくてはいけないと思います。

**組合9** そうですね、これからまた新しいものを考えていかないと駄目だとは思っているんですけど。でも新しいものを考える時って、本当に今まであった歴史とか意味とか、そういうものを全部考えた上で新しいモノを作っていくか、駄目だと思えますね。また、歴史を勉強して、新しいものに向かって作っていくように、自分も勉強しなくてはと思っています。

**組合4** 今回は仏具で三具足という課題であったわけですけども。亡くなった方を偲びたいというデザインが今回は多かったのも、ま、それはそれで良いと思うんですよ。仏具という仏ってというのは、やっぱり阿弥陀様や仏様をまつということで、それなりの決まりがあるのだと思います。そういうものを、仏教じゃなくていいんだ、死んだ人だけ偲べばいいんだ、ということであれば今回のデザインは全て素晴らしいと思います。そういう多様なことに対応することも、我々が考えていかなければいけないなと思いました。

**組合2** この演習は何年も続いていくように私も願っておりますので、皆さんに

仏具というものの、先入観を与えておいた方が良かったということだけが私の心残りだったと思います。

**組合10** 私も業界の方に今の仏具ではなくて、現代仏壇の中に入る仏具を考えてくれとずっと言われていまして。これから自分なりに考えていかなければ、お客さんが買ってくれないなという気持ちですが、今回皆さんの意見を聞いて感じました。心のよりどころという象徴をどういった形で、これからの時代表現しているか。そういったことを高岡という産地で考えながら、今後も仏具が作られているという高岡であってほしいなと思います。皆さん本当によく勉強されたなというような感覚はすごく受け止められました。こちらも良い刺激になったなと思います。仏具という道具を作っている業界ですけども、ニーズに合わせていかないといけないという思いです。ありがとうございました。

**組合8** 我々は、皆さんの想いが実現できるような、商品作り、そういったもののためにこういうディスカッション、こういうものをしているわけですから。またこういうのを2年3年先続けて、その中から商品が生まれていけば良いと思いますし、そうなるように努力したいと思います。ちょっと関係ない話を一つさせて頂くと、私には21歳になる子供がいるんですけども、皆さんの真剣に頑張っている姿を見ると、うちの息子は今頃何をしているのかなと思っています。余談ですが。ありがとうございました。

**組合11** 貴重な時間を本当にありがとうございました。私は今60歳を超えています。あと20年も生きられるか10年生きられるかわかりませんが、自分たちが教育を受けた時は、当然親から言われたら拝まなくてはいけないというのがあるんです。そういう時代は終わりですけども、やっぱり若い人たちの考え方と、私たちががんじがらめの親から教えられたような考え方とのギャップと言いますか。これを私たちが、息子にも強く押し付けるというのが、確かに非常に難しいであろうと思うわけです。本当は皆さんと同じように好きなものを自分で買って

自分で生活していくのが、これは理想だと思います。ところがこの今の世の中はそういうふうにしていけないのが実態であって。10年後20年後どうなるか未恐ろしくなるというのが実感としてあります。

**組合12** 今、これだけ裕福になると心の余裕もできる。それからモノがありふれてきたら、趣味の世界に入ってくると思います。だから一つじゃなくて車にしてもいろんなカラーが出てきて。いろんな形のデザインのもので出てきます。だからこれから私らも、一通り仏壇がおさまっていくと、これからはやっぱり少量多品種でなければと思います。それと、昔はちょっと見栄を張ってましたからね。昔は全部、家でやっていたんですね。例えばお葬式・結婚式・法事。これは全部仏間を中心に、していたものですから。大きい仏間の中に金仏壇の良いものを置いて、皆さんどうぞ！というふうに見せていたんですけども、そういう見栄があったんですね。最近家でするようなことが無くなってしまったものだから。無理して、家も大きくしなくてもいいと。そういう意味で、仏壇の流れも変わってきています。例えば、老夫婦が一軒家でずっと雪がひどくて朝雪どかしをしなくてはならない。でもマンションに住めばそんなことはしなくてもよくなる。そういう流れにこれからなっていくと思います。私もなんとかして勉強をして、それに対応したものを作っていかなくてはならないと思っています。

**組合6** 先ほど言いましたように、この中で私が一番年長だと思うんですが。私らの年代だと親の言うとおりに、年長者の意見は聞くものだという形です。ずっときてしまっ、もう考えが凝り固まってしまっているんですよ。もう変更のきかない時期にきてしまっている、それで皆さんの意見を聞く機会をもたせてもらって非常に喜んでおるわけです。私、発想転換はできないけれど、あなた方の意見を聞いて、横道と言うと言葉が悪いですけど、これからもいろんな意見を出してもらいたいと思います。ただし、仏具云々という事になると、三具足というのが基本なんです。これは鎌倉時代にかたまったと言われていますが、まあ、

鎌倉時代に決めたのなら今変わってもいいと言われればそれまでですけども。拝む対象というのは本来から言ったら仏様であって先祖祖先ではないんですが。今後、故人を偲ぶとかそういう形に変わっていてもいいとは思いますが、仏教である限りは三具足が原則であると思います。

**三船** では学生から一言コメントを。

**学生P** やっぱり自分が考えていた事とはまた違った視点で、コメントがされていて、自分の中の仏具に対する気持ちというのもまたちょっと変化がありました。

**学生R** 今回の授業を通して、今まで全く自分の考えたことのないことだったので、これを機にいろんなことに関心をもっていければと思っています。

**学生A** 最後まで疑問にあったのが、先ほども言われたように見栄とか、日本人の特徴じゃないですけど、やっぱり日本人の社会というのは、世間一般で、他人の目があるから、へたなものは勝手には入れられないという恐怖心があると思うんです。都会の方ではだんだんそういうのが無くなってきているから、現代仏壇とかそういうものができていて。見栄というキーワードをもうちょっと掘り下げていけば、何かいい案が見つかるのではないかと思います。

**学生B** ここにいるみんなと違って、お盆はちゃんとお坊さんと呼んで法事をやりたいというので、逆になんか、新しい三具足といっていることがちょっとわからないというか。そこまで変えたいんだとしたら、全然違うことをするというか。ちょっと、疑問とかも出てきました。

**学生I** 子供の頃に祖母の家とかに行くのと仏壇があって、そこに死んだ人が入っているという感じで見ている。しかもその、そういう考え方だけじゃなくて、モノは見ようだなというのがあって。やっぱり子供心にそこで1人で寝るのが怖かったというのは、やっぱりその仏壇の存在感がすごくあって、そこに誰かを



感じていたと思うんです。それが極端に家具に一体化したり、何のオーラも放たなくなってしまうと、どうかなと思います。

**学生P** この課題をきっかけに、視野、自分のルーツを考える良いきっかけになりました。

**学生N** あんまり、仏具とか今まで意識してなかったけれど、今回やってみて、おじいちゃんおばあちゃん達がどうしてそんなに仏壇を大切にするのかなという気持ち、わかったような気がします。

**学生M** 仏壇の意味がなんとなくわかったのと、仏具というものがどういうものだったのかというのがわかったのが良かったのと、あと課題の出され方として、仏具を全く知らない人間だったので、もっと先入観というのではないですけど、その中の常識というはある程度情報としてあって、ある程度の条件の中でその三具足というテーマで出された方がわかりやすかったし、作りやすかったかなと思います。

**学生L** さっき40年後になったらおばあちゃんと同じになるかという質問、私は同じになると思うんです。それは、食べ物は歯が弱くなったからとか、落ち着いた色が似合うようになったりとか、必ずそこには必然性があるから同じ歳になって、同じものを好むと思うんです。で、私は今回、壁掛け三具足というのを提案したんですけども、これは私が22歳という感覚であったからそれを提案して、でも、ちゃんと考えてみると消費者というのは50歳であるという事を言われて、その事をもっと意識した上で考えればよかったなと思いました。これから先、新しい仏具というのが発展していくのか、それとも昔からあるものが残り続けていくのか、それはまだわからないですけども、明日すぐに40年後になるというわけでもないの、40年かけながら見守っていくかなと思いました。

**学生A** 仏具を通して、いろいろな資料を見たり、これからの様々な状況を考えてものを作るというのは難しいなと感じました。

**学生K** 悪い事したら仏壇に連れていかれて説教をされるという家庭だったので、すごく仏壇の重さとか、自分の中では結構重いのに、ちょっと作品にはその点を出せなかったの、もっと全面に出せたらよかったなと思って、また自分なりに考えてみたいと思いました。

**学生C** 故人を偲ぶことしか考えていなかったの、今お話を聞いている時に、仏様であったり阿弥陀様であったり、その人そのものを敬うということを全然頭に入れていなかったの、もしその考えがあった場合、もっと違うものをデザインできたかもしれないと感じました。ただけどそのことも、最初のバスで見学に行った時にこういうものであると一回聞いていたので、結局、仏様を敬うものとしてデザインしていたら、今までのものとそう変わりなくて、それは今までの人が散々試行錯誤して形作ってきたもので、それに勝るものを僕にはデザインできないから、故人と自分をつなぐ線を作るものとして今回はデザインしました。

**学生J** 今回の課題で一番強く思ったのは、どんな宗教でもどんな宗派でも、別に無宗教でもいいんですけど、誰かのためにとか、とりあえず祈るということが一番大事だと思いました。個人でのデザインでは祈りたくなるようなということで、私は浄土真宗なので、地蔵にしました。

**学生T** 私はこの授業をとっているわけではないんですけど、今日の座談会だけ聞かせて頂いて、もっと、自分に消費者として、モノ作りをする人として責任を持つべきだと思いました。そういう全てに責任を持つと思ったことと、あと、実際に使っていないものはデザインできないというのを実感したので、それをしたみんなはすごい頑張ったなと思いました。

**学生H** 宗教観というのは、何々宗の教えに従ってこうしなくてはいけないということではなくて、自分が生かされているという意識を持って、その上で自分がどういう生き方をしたらいいのかを考えてることだと思いました。そういう気持ち、これからの社会や地球環境を考えて

とか、そういう観点でモノ作りをしていかなくてはいけない時代になっていくと思うので、そういう宗教観が根底に必要なのではないかなと思いました。これからの自分のモノ作りに生かせたらと思います。

**学生G** 私は今まで、そこまで仏壇について考えたことがなくて、今回こういう課題で、仏壇のいろいろなこととか、そういう心とかを考えさせてもらって、すごく勉強になりました。ありがとうございました。

**学生F** 私は、家に仏壇もあるし、できれば伝統を守りたいという自分と、でも新しいものを考えなくてはいけないという考えがすごく自分の中でぶつかっていて、それが形としてちゃんと出せなかった自分がちょっと残念でした。でもありがとうございました。

**学生E** 私は個人の課題もグループ課題も、阿弥陀様を拜むという方向で進めていって、その故人に捉われずに自分が大切な人を阿弥陀様を通して日々想うということに重点をおいてすごく考えていたんですけど。仏具組合の方からのコメントで、故人という言葉が結構コメントの中であって、仏具組合の人の中にも、阿弥陀様のため、故人のためという考え方を持つ人がおられるのかなと思って、正直すごく困惑しています。

**学生D** 今回、ちょうど個人の課題に取り組んだ時に、実は父の命日にちょうどあたって、その時に自分はやっぱり偲ぶ側として考えました。実際私は1人暮らしなので何もものが無くて、亡くなった人を思い出すことができたので、形にする必要もないのではないかなとも思ったんです。やっぱり自分が使うんだったらシンプルの方がいいという考えで、その形式に捉われない仏具とか、三具足でもそんなに仏様を全面に押し出したものを自分では使わないだろうと思ったので、そういうシンプルなもの考えたんです。でも、やっぱり伝統的なものもとても大切な文化なので、そういうのも必要だと思いました。先ほど言ったように多種多様な世の中になると思うので、考え方を一つにする必要はないと思います。

いろんな考え方がるので、答えは一つにしなくてもいいのではないかと、この課題を通して思いました。

**学生0** 自分は様式に捉われない仏具ということで、パソコンを利用していつも故人と一緒にというソフトを考えたんですけど。自由な発想で考えて、自分のやりたいことだけで作ってみて、できた考えを自分で見直してみて、ちょっとやりすぎたなというのはありました。

**三船** では最後に授業を担当した教員から意見を。

**高橋** 今回のような課題は、我々ではまず考えつきませんので、そちらからのアプローチがあってこういうことができ、学生も仏具デザインという課題が出なければ、普段は考えないようなことを考えたわけです。良い経験ができたなと思います。こうやって座談会で直接話し合う機会が出来たというのも本当に良かったと思っていました。この座談会で出てきた中に、ヒントになることがあったのではないかと思います。私なんかは三角が駄目なんて知りませんでしたし、白があまり良くないんだということも全然わかりませんでした。業界の方には常識になっているタブーというもののどこかを崩さないで、多分新商品というのはできてこないんで、そういうことを求めていらっしゃるのかなと思いました。学生のいろんなアイデアがいっぱいデザインとして出ましたが、そういうものでヒントになればいいのではないかと思います。また来年も再来年も続けるつもりですので、よろしく願い致します。

**河原** 組合グループのカルチャーと学生グループのカルチャーのギャップって実は私、家庭でも直面してしまっています。私は九州生まれです。比較的古い考えです。嫁は新しい考えの関東人です。私は、墓が何箇所かにわかれているので合体させようと思っているんですが、当然お金がかかります。何でそんなことをしなくてはいけないんだと言うんですね。それはとても大事な事だからと、私は古い方の考えなのでそう思っています。実際家の中に違う考えの人がいます。高岡に来て私まだ1年経つところなんですが、

昨年高岡で結婚式を挙げまして、その時に、仏壇まいりどうされますかと結婚式場の人に聞かれました、何だそれ？と思いました。私が古い考えだと思っていたんですが、それはもっと古い考えで……。今回の課題を通してそうですし、家庭を通してそうなんですが、このカルチャーのギャップの中で、解決方法を模索していくということだと思います。あと数年間あるかと思っています。またよろしく願い致します。

**渡辺** 仏具という課題を考えた時、すごく難しい問題だなというのをまず最初に思いました。いずれはそういうことに直面するわけなんですけれども、学生が、うまくマッチした答えを導き出せるのかということが引っかかっています。そうは言ってもみんな気付いていることだとは思いますが。昔からある伝統的な形というのは当然なくなっていくし、商売がからんでくるとその売り上げが減少することも実際の問題であって、今までのスタイルを変えない限り減少していく方向にあるのかもしれない。三具足を変えたことによって爆発的に盛り返すものでもないと思うんです。ただ、間違いなく学生の年齢の若い考え方を持った人たちがどんどん年齢を上げていくので、そういった人たちにアプローチする考え方を理解する。また、それに対して仏具の新しいスタイルを模索していくということも、伝統を守る以外にやっていけないといけなことはないかと思っています。すぐその答えを導き出せるとは思ってはいません。非常に難しい問題ではあるんですが、トライしなければいけないことなんだろうなというように感じています。

**組合5** 先日、22～23人の組合員が学生のデザイン画にコメントを書きました。7～8時間くらいかけて、本当に真剣に取り組んで書きました。50枚のデザインされた作品の中において、これは！という作品もございました。新聞を見て、高岡短大のキャンパスへ展示されたデザイン画を見に来られ、これすぐに発注しますからよろしく願い致します、というコメントをいただきました。リビングルームのような所に、先祖代々の写真置いて、火立・花立・香炉を置いて

合掌をするという使い方もあるのではないかなと思います。そういう考えというのは今まで、私たちの業界にはなかったと思います。あくまでも仏壇の中、そういう空間に置くという頭の古い考え方できておりましたので、今のインテリア風の仏具ということも含めて、一生懸命勉強したいと思います。今回だけでなく2年、3年、やりたいと思いますので、何卒よろしく願い致します。

**三船** これは大学の授業ですから、学生のためにやらなければならないというのが根底にありました。最後に学生に授業評価アンケートをとりました。そのアンケート結果を待って、来年度やるかどうかということにしたいと思っています。実は副学長に著作権のご専門の立場からいろいろお聞きしました。デザイン画の扱いについては学生に説明した通りです。必要なことを取り決めてちゃんとやって下さいということです。組合の方にはお願いとして、こういったデザイン画を契約するというのを、社会人の先輩として学生を指導して下さいということです。これは重ねてお願いしておきます。長時間ありがとうございました。